

# 学校一礼

～自分を・人を・場を

『考える子』～

## 「心のきずなを深める月間」

6月は、「心のきずなを深める月間」です。毎年、全県的に行われている取組ですが、今年度の重点目標の中には、「いじめを受けた児童生徒が、『誰かに話をした』とこたえることができるよう、様々な取組を推進すること。」と示されています。本校でも、いじめを許さない学校・学級を目指して取組を進めます。

まず、児童会の取組として、5月の代表委員会で「仲よし宣言文」の見直しが行われました。新しい宣言文を紹介します。

- ① みんな仲の良い、笑顔いっぱい・花いっぱい・やさしさいっぱいの学校にしよう。
- ② 相手の気持ちを考えて、あたたかくなる言葉（ふわふわ言葉）を使おう。
- ③ 自分がされていやなことや、相手がいやがるよびかたはしないようにしよう。
- ④ **考える子**で、しんけんに話を聞きながら、自分の言葉で返そう。

昨年の宣言文を土台に、子どもたちでよく話し合ってくれました。私が個人的にうれしいと思った箇所があります。④です。「考える子」は、本校のめざす児童像です。なにかにつけ子どもたちに繰り返し伝えてきた言葉です。校長が大切にしている言葉を、子どもたちが大切な宣言文に入れようと考えてくれたことが、とにかくうれしいことでした。担当職員に後で聞いたところ、この提案をしてくれたのは、4年生の福田アンナさんだったとのこと。

正門掲示板の内容も6月になって変わりました。今月は6年生が担当しました。この月間に合わせて、「言われて元気になる言葉（ふわふわ言葉）」が散りばめられたアジサイの花が咲き誇っています。



## 雨天時の判断

5月20日、1, 2年生が下校して少して雨が強くなりました。3～6年の下校時は雷も発生していました。20分ほど学校に留ませ、一斉に下校させました。判断から対応の一連の流れの中で、課題も見えました。

- ・判断（通常下校、授業を打ち切り一斉下校、学校に留ませ保護者への引き渡し等）と安心メール配信のタイミングの難しさ
- ・個別のお迎えと前庭の混雑への対応

今後もこのような天候の日はずり起こります。今回の課題を検証し、子どもの安全を確保するためのより良い対応を確立させていく必要性を改めて感じました。

## わたしが先生になったとき

4月の初めに玉名市の「新規採用教職員の服務宣誓式」に出席しました。式の冒頭の福島和義教育長のあいさつの中で、新規採用の先生たちにとってもいい詩がプレゼントされました。学校に戻って、さっそくインターネットで調べました。宮沢賢治の作という説と、作者不詳という説とがありましたが紹介します。

### 「私が先生になったとき」

私が先生になったとき  
自分が真理から目をそむけて  
子どもたちに本当のことが語れるか  
私が先生になったとき  
自分の未来から目をそむけて  
子どもたちに明日のことが語れるか  
私が先生になったとき  
自分が理想を持たないで  
子どもたちに一体どんな夢が語れるか  
私が先生になったとき  
自分に誇りを持たないで  
子どもたちに胸を張れと言えるか  
私が先生になったとき  
自分がスクラムの外にいて  
子どもたちに仲良くしろと言えるか  
私が先生になったとき  
ひとり手を汚さずに自分の腕を組んで  
子どもたちががんばれ、がんばれと言えるか  
私が先生になったとき  
自分が戦いから目をそむけて  
子どもたちに勇気を出せと言えるか

この詩は、作者が教職に就く自分自身につけつけた言葉だと思われそうですが、同じ職である私たち教師にとって自分の姿勢を問い直すうえで心に響く言葉だと、私は感じています。この詩の中の「先生」を「父親・母親」と置き換えて読むと、親としての在り様を考えると参考になるところがあるのではないかと思います。この学校だよりで紹介しました。

※上の記事で、「心のきずなを深める月間」を紹介しましたが、実は6月はこの他にも様々な月間に位置づけられています。「読書月間」「虫歯予防月間」「食育月間」です。他にもあるのかもしれませんが、多いなあとも感じますが、月間を機に重点的に取り組むことで、その後の日常につながる大切だと思います。月間が過ぎたら終わりでは、だめですね。

